都の風 MIYAKO NO KAZE

初夏号
2013年 No.33

■発行／都会メディカルケアシステム　渡辺　康介
■編集／地域広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地
■ホームページ／http://www.miyakokai.or.jp/
■お問い合わせ／info@miyakokai.or.jp

理念
■患者様･ご利用者様の立場にたったキュア（医療）･ケア（介護）を提供いたします
■医療･介護･福祉を通して地域、社会に貢献いたします
■職員の質の向上をはかります

林　あきゑ 様　95歳

生年月日／大正6年11月25日生まれ　北区在住

都会メディカルケアシステム
サブマネージャー　豊嶋　昭彦

風薫る新緑の季節を迎えることができました。日頃から、都会の運営に関してご理解を頂き、誠にありがとうございます。

私は、平成十年十二月より、都会で介護職として勤務しています。デイサービスセンター･グループホーム･ホームヘルプステーションと現場を通して様々な介護の経験をさせていただきました。介護保険制度、身体介護、認知症ケアなど、体験しながら介護の奥深さ、在宅介護の必要性を学ぶ事ができました。現在は、サブマネージャーとして都会の介護･医療サービスに携わっています。

新年度に入り当会では、新役職就任や人事異動を行い、新たにスタートしました。今年度は8名の新入社員を迎えられたことを大変うれしく思います。新卒者や経験者と様々ですが、まずは仕事に慣れて頂き、先輩からの指導を受けて技術･能力･人間性を磨いていってほしいと思います。新役職就任及び人事異動については、都会全体の資質向上と個々のスキルアップを目指し実施しました。所属事業所で力を発揮していただきたいと思います。

都会として、初心を忘れずに物事を大切に捉え、常に職員が向き合い、ひとつの輪となって地域を支えることができたらと思っています。地域の方々が安心して、ご家族やご友人、住み慣れた環境で生活し続けられるように頑張りたいと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。

研修報告

地域連携をすすめる会

『聴くこと、語ることの本当の意味 ―バカボンパパに学ぶ臨床人間学―』に参加して

平成25年1月12日(土)にハートピア京都で開催された研修に参加させていただきました。講師の京都大学大学院人間・環境学研究所の佐藤泰子先生は苦しんでいる人を支えるにはどのように寄り添ったらよいのかというテーマについて「大阪のおばちゃん」風に親しみやすくお話して下さいました。

言葉は自分の気持ちを伝えるための重要なツールです。例えば痛みは自分だけのものであり相手には伝わらないのにも関わらず人はなぜ「痛い」と言葉にして発するのか。それは「この痛みを分かってもらいたい」という期待の中で、「痛かったね」と共感してくれる聴き手の態度によってその痛みを分かってもらえた実感を得ます。その時一瞬でも痛みが和らぐ事を知っているから人は「痛い」と言葉にするとおっしゃいました。

私の勤務するデイサービスでも「痛い、しんどい」と訴えられるご利用者がおられますが実際そういった時は「どこが痛いですか」「しんどくないよ」という声かけになっていた時があります。私たち介護職は治療によって痛みを取り除くことは出来きません。しかし「痛いのですね」と痛みを共感し傍で手を握るだけで安心感が生まれ気持ちの部分では痛みを和らげることは出来るのではないでしょうか。

今回の講義で言葉にはとても大きな力があると気づかされました。ご利用者の気持ちに寄り添い共感の気持ちを持って接することに心がけ信頼して頂ける介護士としてこれからも日々努めていきたいと思います。

西賀茂デイサービスセンター　江本晴香

第一回京都府介護支援専門員研究大会

平成24年12月8日に開催された研究大会に参加しました。

京都府介護支援専門員会初の試みで、「ケアマネジャーの存在意義を考える」というテーマで開催され、ケアマネジャー全員が参加しました。

私はこの大会で、看取りの中でのケアマネジャーの存在意義をテーマに発表させていただきました。私の他にも3名の発表があり、それぞれのテーマで、ケアマネジャーの存在意義について、研鑽できる機会となりました。

基調講演をされた　花園大学　福富先生はお話の中で、私たち現場のケアマネジャーの最重要目的である利用者の方々への自立支援・尊厳保持のための「良い支援」を行なう為にもケアマネジャーの存在意義を具体化していく事が必要と言われていました。

ケアマネジャーの役割は他のサービス事業者では代わりはできません。そのため、今後も常に質の向上に心がけたいと思います。

居宅介護支援事業所　小長谷純子

京都散策 ～上賀茂神社～

賀茂川の上流に架かる御薗橋の東に上賀茂神社はあります。

正式名称は「賀茂別雷神社（かもわけいかづちじんじゃ）」。下鴨神社と並び京都で最古の神社と言われていて、世界遺産にも登録されています。

社伝によると神社の北北西にある神山（こうやま）に賀茂別雷命（かもわけいかづちのみこと）が降臨し、天武天皇の時代678年に現在地に社殿が創建されたとのことです。

京都で最古の神社ということで、古典文学には様々な形で登場しています。かの紫式部も参拝したとのことで「ほととぎす　声まつほどは　片岡の　もりのしづくに　立ちやぬれまし」（ホトトギスの声を待ちわびる間は、この片岡の社の下に立って、朝露に濡れていましょう）とホトトギスを愛する人に例えて恋が叶うようにと願った歌を詠んでいます。ならの小川沿いに、歌碑が設置されているので、散策の折には探してみてください。

ホームヘルプステーション であい（訪問介護）

理　念

～その人に寄り添い、その人らしく生きることをどこまでも支え続ける～

この春で14年目を迎えました。開所当初は、利用者様、職員共に少ない人数からスタートし、現在では職員数：26名、登録利用者数：93名となりました。訪問は、家族同居の方、夫婦二人暮らしの方、1人暮らしの方と様々で、個々のニーズにあった援助をさせて頂いています。訪問させて頂くと、「あんたを待ってたんや」と入浴を楽しみに待っていて下さったり、買物を頼もうとメモを準備して下さったりと訪問を楽しみにしていただけている事、とても感謝しています。中には、自分で身体を動かすことが難しい方、寝たきりの方の援助も行っています。入浴介助、排泄介助、食事介助、通院介助など、栄養、水分確保や清潔保持のため訪問させて頂いています。在宅生活の中で、困難になってきた事をヘルパーがお手伝いする事で、住み慣れた家で長く、安心して生活できるように今後も支援していきたいと考えています。家族の介護負担の軽減にもサービスを利用する事ができます。

訪問介護について分からない事があれば、いつでもご連絡下さい。

ヘルパー紹介（もう少し在籍ヘルパーいます。）

初釜

2月9日ゆう薬局研修センターで、初釜を執り行いました。

当法人では、毎月土曜日に先生をお招きして裏千家流お茶教室を開いています。

初釜では、利用者の皆様にも参加していただき、おいしいお茶とお菓子を味わっていただきました。100名近くの方に来て頂き、感謝しております。来年も、予定しておりますので是非ご参加ください。

委員会紹介　地域広報委員会

当法人では、法人運営を円滑に進めるために、各種委員会を設置しています。

今回は、その中から「地域広報委員会」の活動を紹介いたします。

「地域広報委員会」は、地域とのつながりを密にし、事業所の情報を広く発信するための活動を積極的に行っています。

具体的な活動内容としては、年に4回の広報誌「都の風」発行、みその橋まつりなどの商店街の行事への積極的な参加、第二金曜日の御薗橋通りの掃除協力などです。

活動報告として、今までも「都の風」に、行事報告を載せておりますので、見ていただいている方もたくさんおられるでしょう。

今後も、地域の発展のために貢献できるよう努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。